様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：５３３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４６１１０３４

研究課題名（和文）奥能登珠洲の「キリコ祭り」を事例とした祭礼景観の観光戦略手法の構築

研究課題名（英文）Building of Strategy for Developing Tourism Industry and Utilizing Cultural Festival Landscape; Case Study on Oku-Noto Suzu "Kiriko Festival"

研究代表者
熊澤　栄二（KUMAZAWA, Eiji）

石川工業高等専門学校・その他部局等・准教授

研究者番号：３０３２１４２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,300,000円

研究成果の概要（和文）：本申請研究は、奥能珠洲の「キリコ祭り」を事例とした祭礼を文化的景観として見なし、その観光戦略の構築に向けて以下の調査を実施した。
<基礎研究>地域の祭礼の状況を調査し、各地域の祭礼の観光資源を確定する。1.観光資源化研究：祭礼景観を成立させるための環境要因を解明する。2.地域文化持続可能性研究：祭礼の担い手である子どもたちの文化伝承ための要因を解明する。
<応用研究>観光資源の利用可能性を明らかにする。3.観資源評価手法の開発:観光資源として確立された祭礼の特徴を、観光産業化の観点から客観的に評価する手法を開発し、その有効性の検証を行う。

研究成果の概要（英文）：In this study, “Suzu Kiriko festivals” in Oku-Noto area are treated as Cultural Landscapes, then followings investigations were executed for the building of tourism market.
<basic study> In this section, tourist attractions of local festivals are specified by the investigations of situations in Oku-Noto area, and this section includes following two parts; 1. Study on organizing of tourist attractions (environmental factors of local festivals are described), 2. Study on sustainability of local culture (conscious factors of local children who will bear next generation of local festival)
<applied research> In this section, availabilities of tourist attractions, and this section incudes following part; 3. Development of method which enables evacuation of tourist attractions (objective verification of the method as to strategy for developing the tourism industry)

研究分野：建築論

キーワード：キリコ祭り　奥能登珠洲　祭礼景観　文化的景観　観光資源　意識地調査　実測調査　ヒアリング

１.研究開始当初の背景

(1) 祭礼景観に関する保全政策の立ち遅れの現状:

「文化的景観」の位置づけ作業の中で「習俗及び行事によって現れる景観」の重要性に言及(引用①,②) していたが、記念物の視点からの評価には馴染まない、との理由から法で定める保護範囲からは最終的に外された。この件が象徴しているように、現在保全活動が行われている保全対象の多くは、日常の生活や生業といった所謂「ケ」によって生み出されてきた棚田や里山の景観であり、祭礼などの非日常の「ハレ」が生み出す景観は取り上げられることが少ない。

(2)国内外の関連研究の状況:景観としての祭礼に関する研究ストック不足の問題点

祭礼が作り出す空間の問題を「景観」という観点から研究されたものは皆無であり、直近10 年間のランドスケープ研究の領域においても祭礼自体を取り扱った既往研究は、都市の祭礼空間の変遷(引用③)、中山間集落存続における祭礼を含む地域活動の役割(引用④)、祭礼で利用される森林資源の研究(引用⑤) がある程度である。

(3)国内外の関連研究の状況:観光資源を観光対象化するための資源管理手法の確立

欧米に比べて観光学の研究面での立ち遅れとともに「政府の姿勢も経済面に重点が置かれており、・・・「文化観光」という言葉だけが独り歩きしている」との状況に阿曽村らは警鐘を鳴らす(引用⑥)。加えて尾家建生は「観光資源 resource と観光対象 attraction を使い分けすることの苦手な、わが国の観光学界では、とりわけ観光資源の階層的な構造の解明に遅れている」(引用⑦) と指摘している。つまり日本における観光戦略の脆弱さは、resource から attraction を涵養する学術的な研究ストックの不足による場当たり的な観光開発にその一端があり、本研究で提唱する観光資源評価による観光資源の階層的な構造に対応できる観光資源の管理手法の確立が急務である。

２.研究の目的

(1) 【基礎研究】地域の祭礼の状況を調査し、各地域の祭礼の観光資源を確定する。

Ⅰ.観光資源化研究:祭礼景観を成立させるための環境要因を解明する。

Ⅱ.地域文化持続可能性研究:祭礼の担い手である子どもたちの文化伝承ための要因を解明する。

(2) 【応用研究】観光資源の利用可能性を明らかにする。

Ⅲ.観光資源評価手法の開発:観光資源として確立された祭礼の特徴を、観光産業化の観点から客観的に評価する手法を開発し、その有効性の検証を行う。

３.研究の方法

(1) 対象地域:平成 23 年現在珠洲市では、10 公民館区(日置、大谷、宝立、若山、三崎、正院、飯田、蛸島、上戸、直) 中キリコ祭りは年間 56 か所開催されている。ヒアリングは 2 年間かけて 56 か所で実施する(30 か所/年×2 年≒60 か所を予定)。

(2) 基礎研究:主に平成 24・25・26 年

Ⅰ.観光資源化研究:里山環境の動態調査、祭礼状況の調査の 2 種類を実施する。

a.里山環境の動態調査(ヒアリング)

①環境動態:生業状況、人口の変動、森林等自然資源の活用状況、地域の環境変化(都市整備)

②文化的特徴:年中行事を中心とした地域の祭礼状況、風俗・風習の調査

b.祭礼状況の実態調査(ヒアリング+測量)

①祭礼手順等の現状について詳細の記録

②現有キリコの実測調査:単焦点デジタルカメラによる 3 次元測量

Ⅱ.地域文化持続可能性研究:子どもたちの祭礼文化継承に関する実態調査

c.文化伝承の意識調査(アンケート+ワークショップ)

①アンケートによる祭礼参加の実態および若年層の祭りの関心向上をはかる。複数年にわたる調査により若年層の意識変化の動態を把握する。

②「祭り伝承ワークショップ」(仮) を開催して広く住民から祭礼継続に関する意見を収集する。

(3) 応用研究:主に平成 26・27 年

Ⅲ.観光資源評価手法の開発:資源の特性評価チャートを活用した各地域の祭礼の評価と活用

d.資源評価の実施:ヒアリング対象地に含まれる観光資源のチャート評価を行う。

表 1 研究内容および研究組織

研究番号	研究内容 ＼ 役割分担	熊澤	堀内	熊澤研究室 5年生1名 4年生4名	金沢大学 学生 4年生1, 3名	珠洲市 企画財政課
0	研究指揮・企画	◎	◎			○
a	里山環境の動態調査	堀内指揮による研究				
	①環境動態	△	◎	△	○	
	②文化的特徴	△	◎	△	○	
b	祭礼状況の実態調査	熊澤指揮による研究				
	①祭礼調査	◎	△	○	△	
	②キリコ調査	◎	△	○	△	
c	文化伝承の意識調査	△	◎	○	○	
d	資源評価の実施	◎	○	○	○	
e	観光戦略の策定	◎	○	○		○

【凡例】 ◎:主担当／指揮　○:研究担当　△:補助・支援

４.研究の成果

(1) Ⅰ.観光資源化研究:祭礼調査

平成 27 年 2 月までに正院地区(立町、西浜、八幡)、蛸島地区（前之浜、中貝蔵、仲脇)、野々江(天神、酉中、杉之木、本江寺)、三崎地区（粟津、小泊、寺家）4 地区 13 集落の調査を終了した。加えて、平成 28 年 1 月までに蛸島(本貝蔵)、正院（小路)、馬縅(大崎)、大谷(片岩)、若山(吉ヶ池)の 5 地区 5 集落の合計 8 地区 18 集落のヒアリングを終了した。

(2) Ⅰ.観光資源化研究:祭礼調査

a.里山環境の動態調査（ヒアリング)

奥能登は超高齢化地域であり、全体としては人口減が目立つ。特に能登半島の先端の三崎地区では特に人口減が目立った。しかし、正院地区では中山間地からの人口移動により人口の微増が続く地域も含む。蛸島地区では漁労による生計が厳しく人口の流動も大きい。ほかの地域との違いとして空き家となる家を更地に戻すことがあり、一体的な街並としての統一感が失われる危惧もみ受けられた。また祭礼については、若山などの中山間地ではキリコの担ぎ手不足によりすでにキリコを出すことを放棄した地区も存在するが、馬縅地区の大崎集落では、集落内に都会の大学生ら若者を民泊経験してもらい、今までのキリコの担ぎ体験だけではく、組み立てから住民と一体で活動する試みが行われている。また、大谷地区では祭り御膳である「ヨバレ」を継続していくためにも、「ヨバレ食堂」など、新しい試みが開始されている。

(3) Ⅰ.観光資源化研究:祭礼調査

b.祭礼状況の実態調査（ヒアリング+測量)

キリコの基本寸法を採寸するにも、解体後のキリコでは住民に再組み立てを強いることが分かった。そこで今回は組み立てた状態でキリコを保管するキリコ倉庫内のものを中心に調査を行った。

①キリコ実測での調査結果

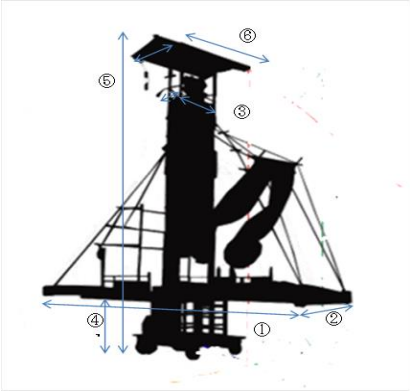
・寸法（肩ね棒)：長さは蛸島全体で短い。また高さは正院（内浦）から三崎（外浦）にかけて低くなる傾向が認められる。

・寸法（比率)：四本柱の短辺幅：長編幅は 1：3 の比率となる。寸法は各地域ほぼ同じで短辺で 25-29cm, 長辺で 85-93cm 以内。また屋根は妻：平が１：２である。

・寸法（高さ)；正院（内浦）から三崎（外浦）にかけて高くなる傾向が認められる。

②キリコ倉庫の実測調査結果

・キリコ飾りの状況：正院および小泊は祭礼での使用状態での保管、蛸島および野々江では半解体状態での保管であり、集落により保管の考え方が異なる。



①肩ね棒、　②キリコ幅、　③四本柱幅

④肩ね棒までの高さ、⑤最高高さ、⑥屋根幅

図 1 実測調査の対応図

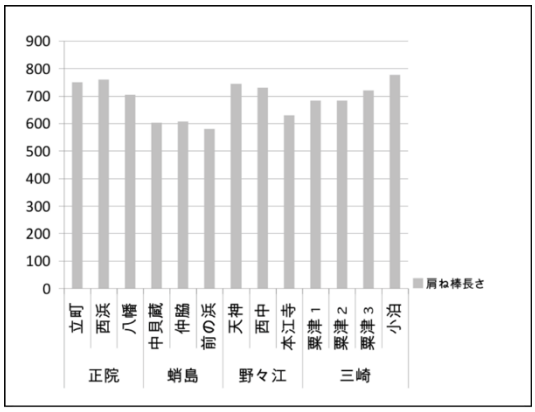


図 2 肩ね棒の長さ

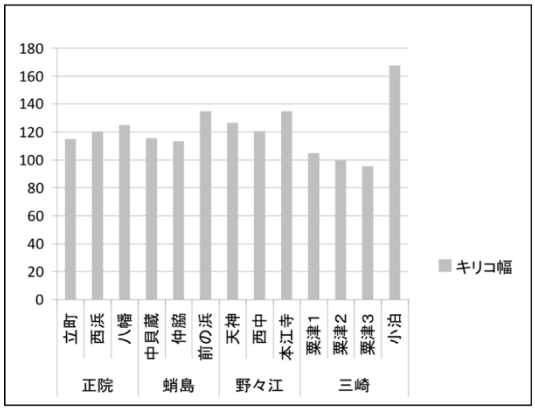


図 3 キリコ幅

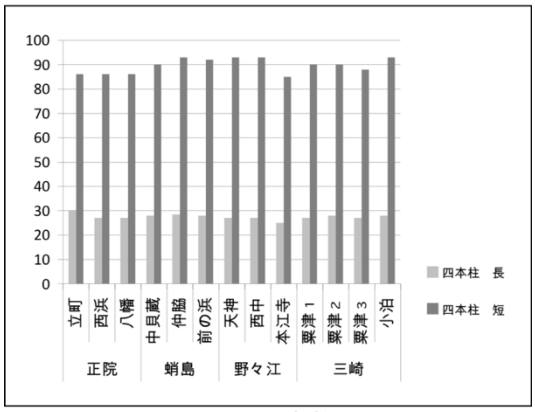


図 4 四本柱

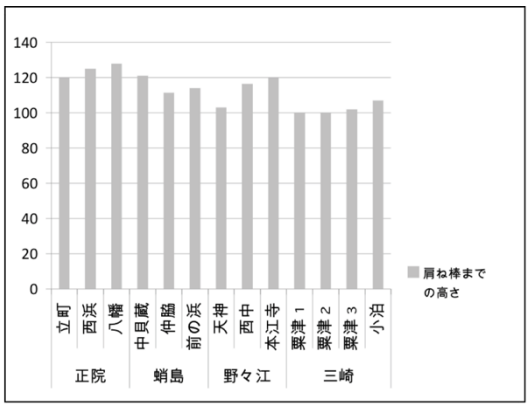


図 5 肩ね棒までの高さ

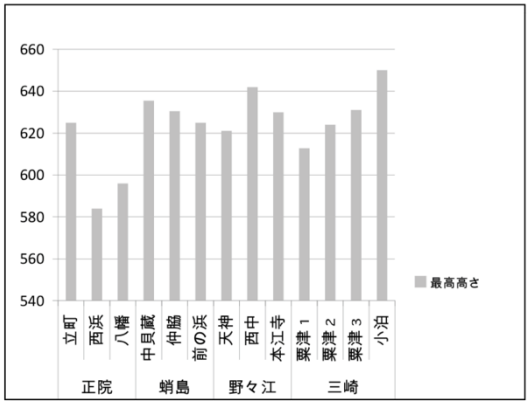


図 6 最高高さ

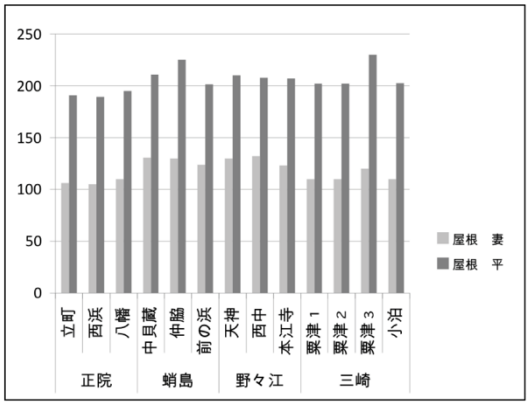


図 7 キリコの屋根

・格納庫の建設：調査地区中、小泊地区のものが最古（昭和 57 年）。蛸島で平成 10 年以降を境に格納庫が一斉
に広がり、正院、野々江と伝播した。

・格納庫の仕様：正面扉はほぼ観音扉。平成 15 年以降はキリコ屋根への飾り付けのための足場として 2 階ロフトが敷設されている。近年では祭礼後の直会所を付設する場合が増えた。

(4) Ⅱ. 地域文化持続可能性研究：子どもたちの祭礼文化継承に関する実態調査

c. 文化伝承の意識調査（アンケート+WSP）

子どもの祭礼と地域に対する意識を把握するために，珠洲市の全小・中学生（9 小学校，4 中学校）にアンケート調査を行った。アンケートは，地域の祭礼文化を考える際に社会性と役割をもちながら地域の祭礼に関わり始める年齢層である小・中学生を対象として，祭礼シーズンが終わった 2011 年 12 月～2012 年 1 月にかけて実施した。回答項目は，1）学年，性別，居住地区についての個人属性，2）2011 年の祭礼における伝統芸能への参加状況，3）祭礼に対する意識の 5 段階評価（10 項目），である。伝統芸能については，珠洲市の多くの祭礼において小・中学生の役割であり，地域の一員として祭礼に関わり始める最初の段階である太鼓，横笛，かね，獅子舞，キヤラゲ（木遣り唄）の 5 種類への参加状況を尋ねた。

図８は，祭礼に対する意識について 5 段階評価で回答してもらった結果である。祭礼の楽しさに関しては，『人が集まってにぎやかなことが楽しい（以下，にぎやかなことが楽しい）』と思う（「とてもそう思う」，「少しそう思う」の合計）と回答した児童・生徒は 88.9%，『囃子の演奏が楽しい（以下，囃子が楽しい）』と思うは 69.3%であったのに対して，『踊りが楽しい』と思う児童・生徒は 34.1%にとどまった。

祭礼の素晴らしさに関しては，『自分の地区の出し物が素晴らしい（以下，出し物が素晴らしい）』『古くから珠洲に伝わる祭りが素晴らしい（以下，祭りが素晴らしい）』『古くから珠洲に伝わる祭りを守る必要がある（以下，守る必要がある）』すべての項目においてそう思う児童・生徒が約 8 割を占めた。

表２　キリコ倉庫調査表

地区 項目	正院			蛸島							三崎		
区名	立町	西浜	八幡	前之浜	中貝蔵	中脇	天神	西中	杉之木	本江寺	粟津	小泊	寺家
提灯	有	有	有	－	有	－	－	－	－	－	有	有	有
太鼓棒	有	有	有	－	有	有	－	－	－	－	－	－	有
奉灯	－	－	有	有	有	－	有	有	有	有	有	－	－
肩ね棒	－	有	－	－	－	有	－	有	－	－	－	－	－
肩当	有	－	－	有	有	－	－	－	－	－	－	－	－
年代	H23	H15	H13	H15	H16	H16	不明	H23	H25	H19	H24	S57	S60
設計者	不明	出村工務店	出村工務店	今井工務店	助のり工務店	町内建築士	不明	中村龍吉	地元工務店	地元工務店	菊谷正好	不明	不明
扉	ジャッター	観音開き	観音開き	観音開き	観音開き	観音開き	観音開き	観音開き	観音開き	観音開き	引き戸	観音開き	ジャッター
階層	2階	1階	1階	2階	2階	2階	2階	2階	2階	2階	2階	1階	2階
階段	有	－	－	－	－	有	有	－	有	有	－	－	有
保管物	キリコ	キリコ	－	－	－	－	－	－	－	キリコ	－	－	－
空間	直会	倉庫	－	－	－	－	－	－	－	倉庫	直会	－	－
参考	正院	蛸島	蛸島	蛸島	蛸島	高屋	蛸島	蛸島	蛸島	蛸島	－	不明	不明

表３　珠洲市の地域タイプの分類

タイプ	地区名	立地・主な産業	主な出し物	年少人口[1)]	
				割合	人数
僻地型	日置、大谷、三崎	交通の不便な外浦に立地し、半農半漁が基本	キリコ、獅子舞	8.3	358
山間地型	若山	農業中心の山間地	キリコ、農耕儀礼	8.4	167
郊外型	宝立、上戸	新しい商業施設や住宅地進出	キリコ、曳山、キヤラゲ	9	370
漁師町型	蛸島	漁港を中心とする漁師町	キリコ	9.7	141
町型	正院、飯田、直	行政機能と古くからの商業施設をもつ中心地	キリコ、燈籠山、盆踊り	10.8	479
珠洲市全体				9.3	1,515

１）2010 年国勢調査より作成

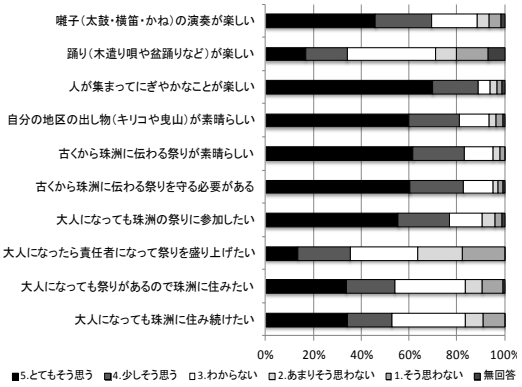


図８祭礼に対する意識の５段階評価(n=968)

将来の祭礼や地域との関わりへの意識については,『大人になっても珠洲の祭りに参加したい（以下，大人になっても参加したい)』と思う児童・生徒は 77.1%を占めたのに対して,『責任者になって祭りを盛り上げたい』と思うのは 35.2%,『祭りがあるので珠洲に住みたい』と思うのは 54.0%,『珠洲に住み続けたい』と思うのは 52.8%であり，この 3 項目は「わからない」と回答した児童･生徒が約 3 割を占めた。

(5) Ⅲ.観光資源評価手法の開発：資源の特性評価チャートを活用した各地域の祭礼の評価と活用

d.資源評価の実施：

①観光資源チャート分析

西山卯三は、環境資源空間は生活環境であると定義し、都市計画的視点から評価軸をもって観光資源のパターンわけを行っていた(「観光開発の基本問題」／日本建築学会近畿支部，p.119)。このパターンを踏まえて本研究では新たな分析手法の提案を行う。

X 軸方向に自然や歴史的な資源の状況の依存と開発の関係性での位置づけ，Y 軸方向に観光行動の受動性もしくは能動性の可変性を表した指標上に,各観光資源(図 9 内の a～e)をプロットする。指標上への資源プロットは、現地調査を行った複数名の研究者による検討を踏まえて行う。観光対象の範囲に含まれる観光資源を線で繋ぎ、観光資源、観光対象の特性を空間的に表現する。

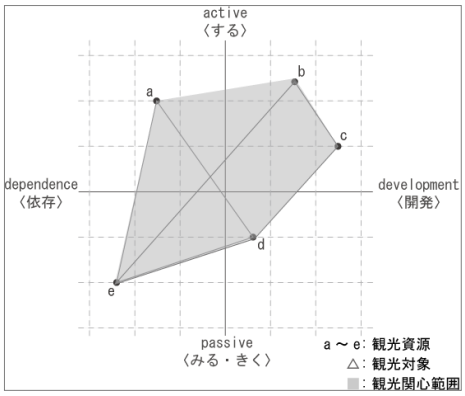


図９　観光資源チャート

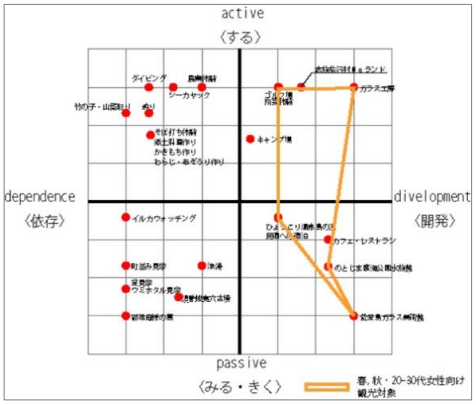


図１０ 実例分析：能登島観光

この観光資源評価チャートに準じて、能登半島広域観光圏にある能登島を例にして観光資源を分析した結果が図 10 である。30 代女性の具体的な観光動向を直感的に把握でき、観光対象を設定しやすい。奥能登での観光戦略を構築する上でも活用が期待される。

②観光戦略の検討と実践

平成 26 年 8 月には、「地域文化の継承と観光資源の評価」と題し、沖縄竹富島、マルセイユでの観光資源（赤瓦景観）の活用と問題について、現地踏査および現地の景観整備実務者との「文化的景観」の今後の保存戦略について意見交換およびヒアリング（J.P. Canut（Eguière 副市長)、A.Brieugne(Eguière 都市計画・共同遺産(文化財))、N.Fievi è教授(Institut d’Asie Orientale MRASH)、入江徹准教授(琉球大学)、上勢頭芳徳(喜宝院蒐集館長)、沖縄県建築士会、NPO 法人 沖縄の風景を愛さする会、沖縄県造園建設業協会、等）を実施し、その結果を「第一回　赤瓦の里　国際文化交流セミナー」にて発表を行った。

さらに、最終年度の平成 28 年 3 月には、文化庁日本遺産「灯り舞う半島　能登　～熱狂のキリコ祭り～」活性化委員会および石川県で企画された観光パンフレットが発行され、その特集ページとして本研究の一部成果を掲載することができた。

＜引用文献＞
①文化庁文化財部記念物課、農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査（報告)、2003

②同上、日本の文化的景観―農林水産業に関する文化的景観の保護に関する調査研究報告書」、2005

③黒川朋広・中村攻他、千葉県佐原市の山車祭りにみる都市の祭礼空間とその利用に関する研究、ランドスケープ研究 59(5))、1996

④甲斐友朗・柴田祐・澤木昌典、兵庫県丹波地域における集落出身者のかかわりを通した集落の存続に関する研究、ランドスケープ研究 71(5)、2008

⑤木村栄理子・深町加津枝、伝統行事「松上げ」における森林資源利用の地域特性、ランドスケープ研究 73(5) 、2010

⑥阿曽村邦明・智子、文化観光論、2009、210

⑦観光資源と観光アトラクション、大阪観光大学紀要第 9 号、2009

５.主な発表論文等
〔雑誌論文〕（計６件）
①熊澤　栄二、奥能登キリコ祭りを通した町づくりの研究 VI-祭礼の継続要因：実測調査の報告 その 1、日本建築学会大会学術講演集、査読無、関東、2015、71-72

②熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究 V-七尾市能登島におけるリゾート挙式の可能性 2-、日本建築学会大会学術講演集、査読無、近畿、2014、1003-1004、

③熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究 IV-七尾市能登島におけるリゾート挙式の可能性-、日本建築学会北陸支部報告集、査読無、57 巻、2014、599-602

④熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究-III 七尾市能登島地区を事例として 2-、日本建築学会大会学術講演集、査読無、北海道、2013、1187-1188

⑤熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究 II-七尾市能登島地区を事例として-、日本建築学会北陸支部報告集、査読無、56 巻、2013、346-349

⑥熊澤　栄二、南川　愛貴、地域活性化の手法に関する研究、日本建築学会北陸支部報告集、査読無、55 巻、2012、349-352

〔学会発表〕（計７件）
①熊澤　栄二、奥能登キリコ祭りを通した町づくりの研究 VI-祭礼の継続要因：実測調査の報告 その 1、日本建築学会大会、2015 年 9 月 4 日、東海大学湘南キャンパス（神奈川県平塚市）

②熊澤　栄二、美作　天地、ほか 3 名、地域文化の継承と観光資源の評価、赤瓦の里　国際文化交流セミナー、2014 年 11 月 24 日、APA ホテル大聖寺駅前（石川県加賀市）

③熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究 V-七尾市能登島におけるリゾート挙式の可能性 2-、日本建築学会大会学、2014 年 9 月 13 日、神戸大学（兵庫県神戸市）

④熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究 IV-七尾市能登島におけるリゾート挙式の可能性、日本建築学会北陸支部、2014 年 7 月 13 日、富山大学（富山県富山市）

⑤熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究 III-七尾市能登島地区を事例として 2-、日本建築学会大会、2013 年 8 月 31 日、北海道大学（北海道札幌市）

⑥熊澤　栄二、吉田　早織、観光資源の評価と活用に関する研究 II-七尾市能登島地区を事例として-、日本建築学会北陸支部、2013 年 5 月 13 日、金沢工業大学(石川県野々市市)

⑦熊澤　栄二、南川　愛貴、地域活性化の手法に関する研究、日本建築学会北陸支部、2012 年 7 月 22 日、信州大学(長野県松本市)

〔図書〕（計１件）
①熊澤　栄二、藤平　朝雄、他 1 名、能登のキリコ祭り、「灯り舞う半島　能登～熱狂のキリコ祭り」活性化協議会、総数 39 ページ、2016 年 3 月

６.研究組織
(1)研究代表者
熊澤　栄二（KUMAZAWA, Eiji）
石川工業高等専門学校・その他部局等・准教授
研究者番号：３０３２１４２５

(2) 研究分担者
堀内　美緒（HORIUCHI, Mio）
金沢大学・学内共同利用施設等・研究員
研究者番号：００５７９１９６
（平成 27 年度より連携研究者）